

令和8年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・発表の聞き取りメモを活用しながら話の内容を適切に聞き取る学習を反復した結果、聞き取る際のポイントを抑えられるようになった。
- ・教科書をもとに、他の様々な文章に触れさせることで、文章の内容を正確にとらえ、伝えたい事柄を明確にして書く力が上がり、多種多様な表現活動の際にも表現の工夫が見られるようになった。
- ・教材について自分の意見を書き、互いに読み合うことで、適切な表現で課題に沿った内容を書く姿勢が定着し、記述問題についての正答率につながった。

(2) 課題

- ・話の内容を適切に聞き取り意図に応じて質問を工夫する力を付けるために、聞き取ったことをもとに問い返す活動を反復する。
- ・文章の内容を正確に捉え、伝えたい事柄を明確にして書くことができるよう、様々な文章に触れさせ、表現の工夫を学ばせる。
- ・漢字や文法は、今後も繰り返し復習させ、定着を図る。また、文の成分や品詞に関しても授業の中で折に触れて確認する。
- ・目的や意図に応じて文章を書く際に、自分の考えが伝わるように工夫を施すことを苦手とする生徒が多いため、授業の中でも様々な目的に応じた文章を書く機会を増やす。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和8年度結果	令和7年度結果	令和6年度結果
第1学年	目標値を、基礎・活用ともに大きく上回っていた。		
第2学年	目標値よりも、基礎・活用ともに上回っていた。	目標値よりも、基礎・活用ともに大きく上回っていた。	
第3学年	目標値よりも、基礎・活用ともに上回っていた。	目標値よりも、基礎・活用ともに大きく上回っていた。	目標値よりも、基礎・活用ともに大きく上回っていた。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ほとんどの問題において、目標値を7ポイントほど上回っている。ただし、「漢字を書く」「文法・語句に関する事項」の正答率は目標値を1、2ポイントほど上回っているのみであった。	総じて目標値より上回っていたが、「文章を書く」のうち、「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように工夫している。」については、目標値を10ポイント近く下回ってしまった。	設定なし

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より上回っている。ただし、漢字、文法などの問題については全国正答率と同水準であるため、第一学年の復習とさらなる定着をさせたい。	目標値より大きく上回っていた。どの問題でも概ね正答率は高い結果であったが、説明的文章の記述の問題が同水準であった。	設定なし

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全問題に関して、目標値より上回っていた。ただし、クラスによっては「文法・語句に関する事項」に下回るものも見られたので、均一になるよう重点的に指導していきたい。	目標値より上回っていた。特に、文章表現に係る問題について、正答率が高い傾向が見られる。	設定なし

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字・語句の知識定着のため、週に1回漢字の読み書きに関する帯学習の時間を設けている。また、定期考査とは別に、定期的に漢字の小テストを実施する。 また学期に一回以上文法事項の授業の中で、文の成分に関する復習を行っていく。	案内文や資料を用いて説明する文章、故事成語を用いた体験文などの、『意図や目的に応じて、自分の考えを伝える文章を書く活動』を、文章読解の単元に関連させ、単元最後に取り組む言語活動として設定する。	単元の目標を導入時に提示する。また学習活動を導入時に説明し、見通しをもって授業に臨ませる。 また単元の終了時には目標に関する振り返りを行うことで、自身の力がついたことを認識させ、主体的に学ぶ動機付けの一助とする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字、言語知識の定着のために、授業中に新出語句、漢字があった際には、ICTを使用し、調べ学習を促している。また、ノートの評価の際に調べ学習で調べたことも評価に入れることで生徒の意欲向上につなげる。	読解力向上のため、小説、説明文の構成を指導し直し、構成を意識した読解をさせる。特に教科書の接続詞に目印をつけさせるなど、視覚的にわかりやすい読解指導を行う。	講師の先生と連携し、夏期休業中の課題として、作文課題に取り組むことで文章記述の力を充実させる。また、単元の学習目標を立て、その単元終了後に自己評価をつけることで振り返りを行い、自分がその単元で何を学び、どう成長したかを明確化することで学びに対する主体性を養う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第4回定期考査までに文法に関する基礎事項の学習を、授業を通じて充実させる。また言語事項に関する基礎事項の学習も単元テスト等を通じて充実させる。	目的に応じて文章を読み、必要な情報を得て、自身の論理展開を考えるような授業展開を計画する。また自分の考えを文章・言葉に置き換え、適切に相手に伝えることができるよう、語彙に関する力の充実を、作文課題などを通じて計る。	単元に入る際に学習の目標を持たせ、見通しをもって授業に臨ませる。各単元において、何を学ぶのか、どこで生かせるのかをイメージさせた状態で授業を展開することにより、自分自身の力を高めていることを実感させる。そのことが学びの動機付けの主たるものとなるような指導を展開していく。

令和8年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・地理的分野、歴史的分野ともに、復習のための小テストや家庭学習用のワークブックを導入したことにより、基礎学力を高めることができた。またICTの効率的な活用により、授業中に感じた疑問や、より深い学びに関する主体的な取り組みを行う生徒も増えてきた。
- ・社会的事象について興味・関心を高めるため、新聞を活用した授業やニュースに対して持論を展開する「ニュースカード」を週に1回導入した結果、現在起こっている社会情勢やSDGsの重要性に対する意識が高まった。

(2) 課題

- ・全体的に知識・技能の点では、目標値に達しているが、地理的分野、歴史的分野の共通する課題として、大きな時代の流れを読み取る力や抽象的な概念について理解する力に課題をみることができる。今後、資料を活用した演習や文化史や多角的な視点から考察する力の定着をはかっていきたい。また学習した内容を定着させるための方法をさらに考え実践していきたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和8年度結果	令和7年度結果	令和6年度結果
第1学年	おおむね、基礎・活用とも目標値を上回っているが、歴史の一部で下回っている。		
第2学年	活用においては目標値より上回った。	基礎・活用ともに目標値より上回った。	
第3学年	基礎・活用ともに目標値より上回った。	基礎・活用ともに目標値より上回った。	基礎・活用ともに目標値より上回った。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より上回った解答が多かったが、歴史的分野におけるさまざまな勢力関係からおこる歴史事象に関する問題で目標値を下回るものがある。	目標値よりを上回ったが、記述に関する問いで目標値を下回るものがあった。	社会的好奇心が高く、疑問に対して議論する雰囲気が学年全体である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
活用においては目標値より上回った。	活用においては目標値より上回った。	活用においては目標値より上回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎・活用ともに目標値より上回った。	基礎・活用ともに目標値より上回った。	基礎・活用ともに目標値より上回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史的事象や地理の学習が自分たちの生活に関連していることを意識させながら授業を進める。生徒が当事者意識を持ちやすい学習テーマに関する資料を探し、ICTを効果的に活用しながら授業を進める。歴史・地理の関連を意識しながら振り返る時間を授業内に取り入れる。	新聞やニュースを取り入れながら、さまざまな現代社会にある課題と関連づけて歴史、地理の課題に取り組んでいく。多くの資料を活用して、多面的・多角的な視点から思考を深める学習を進める。	話し合い活動や調べ学習、発表などの授業形態を取り入れ、興味関心を高めていく。さまざまな社会の動きに目を向け、関心を高めるため、ニュースや新聞などを授業に取り入れていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
興味・関心を高めるために、学習テーマに関する良い資料を探し、ICTを効果的に活用しながら授業を進める。歴史・地理の関連を意識しながら振り返る時間を授業内に取り入れる。	グラフや地図など、複数の資料から特徴をつかみ、それを文章に的確に書く作業を取り入れていく。プレゼンテーションを行うことで考えたり、判断したりしたことについて発表する活動を行う。	調べる、まとめる、発表する授業形態を実践する。話し合い活動やプレゼンテーションを通じて、自らの考えを発信できる力を身につけるようにしていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3年間の総まとめを行いながら、基礎知識を定着させる。地理や歴史と関連させながら、公民的分野の学習を進めていく。	グラフや地図など、複数の資料から特徴をつかみ、それを文章に的確に書く作業を取り入れていく。プレゼンテーションを行うことで考えたり、判断したりしたことについて発表する活動を行う。	調べる、まとめる、発表する授業形態を実践する。話し合い活動やプレゼンテーションを通じて、自らの考えを発信できる力を身につけるようにしていく。

令和8年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験・観察を大切にし、生徒の主体的な学びに結びつける実物や視聴覚教材などを用いて、関心・意欲・態度を高められるような授業を実施することができた。(第1学年)
- ・ICTを活用したドリル学習および、AI トレーナーを活用した自宅学習を行い、基礎力の向上を図った結果、昨年度、基礎、応用ともに下回った区の目標値をともに上回ることができた。(第2学年)
- ・考えさせる授業を通して表現力を向上させ、要点を他者に伝える力を育成した結果、短答形式の解答で約7ポイント、記述形式の解答で約9ポイント目標値を上回ることができた。(第2学年)
- ・考えさせる授業を通して表現力を向上させ、要点を他者に伝える力を育成した結果、短答形式の解答で約9ポイント、記述形式の解答で約16ポイント目標値を上回ることができた。(第3学年)
- ・小中一貫教育における研修会をベースに、スムーズに小学校の既習事項から中学校への理科につながる工夫をおこなった。
- ・知識の確認と定着を図るために、小プリントによる重要事項の確認を行った。また、生徒同士の協働作業を通して、知識や技能の確実な定着を行った。

(2) 課題

- ・生徒同士の協働作業を通して、授業の中で知識や技能を確実に定着させることが改善点である。(第1学年)
- ・実験と観察を大切に、理科的な経験不足を補い、主体的に学習に取り組む態度を高めるような授業を実施する。小中一貫教育における研修会で協議し、小学校から中学校へのスムーズな連携を引き続き図る。
- ・「短答」「記述」形式の正答率の高さを引き続き維持するために、授業内における主発問の論理的な思考と、思考を表現するための的確な言語化をうながす。(第2・3学年)
- ・基礎的な知識の定着について、ICT機器を利用したデジタルドリルなどを活用し、さらなる定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和8年度結果	令和7年度結果	令和6年度結果
第1学年	基礎、活用について共に目標値を下回った。また、物質・エネルギーの領域は目標値と同程度であったが、生命・地球の領域で目標値を下回った。		
第2学年	基礎、活用について共に目標値を上回った。また全領域、全観点で目標値を5ポイント以上、上回った。	基礎、活用について共に目標値を下回った。また、物質、エネルギー、生命、地球の各領域で目標値を下回った。	

第3学年	基礎、活用、及び全ての領域において目標値を大きく上回った。特にエネルギー領域に関しては目標値を10ポイント以上上回った。	基礎、活用、及び全ての領域において目標値を大きく上回った。特に活用については前年度に比べ、23ポイント正答率が上昇した。	基礎・活用共に概ね目標値を上回った。基礎で3問、活用で1問、目標値を下回った。
------	--	--	---

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生命・地球領域では5問、目標値を下回った。物質・エネルギー領域では1問、目標値を下回った。	生命・地球領域で選択式および短答形式の解答形式では目標値を大きく上回った。物質・エネルギー領域での、記述については目標値を下回った。	学年集団は粘り強く学習に取り組む姿勢を持ち、課題に意欲的に取り組もうとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的内容、選択式解答方法の問題で、生物分野2問、化学分野1問、目標値を下回った。生物分野は分類に関する問題だった。	応用内容、記述式解答方法の問題で、化学分野1問が目標値を下回った。密度と浮き沈みの関係についての問題だった。	元素記号を主体的に覚えるなどの活動を行い、学年集団は粘り強く学習に取り組む姿勢が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的内容、選択式解答方法の問題で、生物分野1問、化学分野1問、目標値を下回った。生物分野は顕微鏡の使い方に関する問題だった。	応用内容、記述式解答方法の問題で、化学分野1問が目標値を下回った。電流と磁界、電磁誘導に関する問題だった。	学年集団は粘り強く学習に取り組む姿勢が見られる。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回った内容について繰り返し学習を行い、基礎・基本の定着をはかる。	目標値を下回った記述形式について、授業内で論理的に思考し、的確に表現する授業を行う。	興味のきっかけとなる話題や観察・実験を多く取り入れる。仲間と協同して解決していく能力を高める。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回った3問について、植物の分類と、気体の性質について、ICT機器を使ったドリル学習を行い、知識の定着を図る。	昨年度に引き続き、仮説を立て、言語化した考察を、相手に伝わる形で表現することを目的に、計算された発問を授業で行う。	集団として学習に取り組む姿勢は育ちつつある。学習に取り組む方法が分からない生徒に対し、個別最適な学習方法を見つけ、定着させる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回った2問について、物質の化合比については、原子量の考え方を先に学ばせ、仕組みを理解させる。また、顕微鏡については実際に使用し、技能を習得させる。	電磁誘導と誘導電流の仕組みについて、法則を丸呑みで暗記させるのではなく、電流に対し反時計回りで磁界の向きが発生させることを理解する。	学習に取り組む方法が分からない生徒に対し、個別最適な学習方法を見つけ、定着させる。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・ 第1学年

教科の平均正答率が目標値を 11.4 ポイント上回り、加えて、全ての領域と問題で目標値を上回る結果となった。特に、単語や表現の意味理解（聞く）の問題では目標値を 17.3 ポイントも上回ったことから、繰り返し音声を聞き、発話する活動を行ってきたことで、英語の音声を聞いたときに日本語に訳さなくても意味を捉えられる状態にあることが考えられる。

・ 第2学年

教科の平均正答率が目標値を 16.3 ポイント上回り、全ての領域と問題で目標値を上回る結果となった。昨年度課題であった「語形・語法・語彙の知識・理解」においても目標値を上回った。帯活動における文章を読む活動や自分自身の考えや経験を話したり、書いたりすることを継続的に行ってきたことによって表現力や文章を読む力の土台となったと考える。

・ 第3学年

教科の平均正答率、領域別・内容別正答率ともに目標値を上回ることができた。昨年度課題であった語形・語法の知識・理解についても改善が見られた。動詞に関する語形変化を帯活動で学習し、その後テストを実施することが学習の定着につながったと考えられる。また書くことについては、教科書の題材について自分の考えをまとめた英作文で書く活動を継続しているため、「3文以上の英作文」の項目については目標値を30パーセント上回ることができた。

(2) 課題

・ 第1学年

英作文については、目標値を 9.5 ポイント上回ったものの、正答率として数値を上げる余地がある。引き続き、音声を重視した「話すこと」の言語活動を継続的に設定し、fluencyを重視した書く活動へと接続することで、音声と文字・意味の結びつきを強化する。

・ 第2学年

昨年度の課題であった「語形・語法の知識・理解」において目標値を上回ったが、その優位性が他の項目と比べて十分ではない。特に文構造を理解し、対話文を読み取る部分に課題が見られる。引き続き、文章を読む活動等を継続的に行う。

・ 第3学年

「場面に応じて書く英作文」については目標値を上回っているものの、その優位性が他の項目と比べて十分ではない。今回の場面にあった疑問文を書かせる出題が日々の活動の中で十分ではないため、場面を設定し、疑問文を考えさせたうえで発話させ、その発話の正確さをフィードバックする活動を取り入れる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和8年度	令和7年度結果	令和6年度結果
第1学年	基礎・活用ともに目標値を上回り、全ての問題で目標値を上回る正答率だった		

	た。		
第2学年	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。	
第3学年	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全ての問題で目標値を上回った。	全ての問題で目標値を上回った。	主体的に学習に取り組む態度に関する問題は出題されていない。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全ての問題で目標値を上回った。	全ての問で目標値を上回った。	主体的に学習に取り組む態度に関する問題は出題されていない。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全ての問題で目標値を上回っていた。	全ての問題で目標値を上回っていたが、「場面に応じて書く英作文」では他の問題に比較し目標値をわずかに上回ったので、練習活動を補充する必要がある。	主体的に学習に取り組む態度に関する問題は出題されていない。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き、音声を重視し、基礎・基本の定着を図る。	新出事項の導入の際に、既習事項の復習を取り入れ、既習内容の定着を図り、新出事項への円滑な接続を図る。	相手意識を持たせた単元目標やそれを達成するための活動を意図的に取り入れて単元計画を作成する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語形・語法の知識・理解を定着させる活動を継続的に行い、新出事項は既習内容と関連させ指導し復習できる機会をつくる。	教科書や副教材を用い読解力を高めるとともに、教科書等の題材について自分の考えをまとめた英文で作成する力を育む。	学習に主体的にかつ粘り強く取り組める活動や内容を取り入れる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度課題であった語形・語法の知識・理解については改善が見られているので、今後も定着させる活動を継続的に行う。	教科書の各単元の題材について自分の考えをまとめた英文で作成する指導を継続する。	生徒が主体的に学習に取り組めるよう、生活に即した真正なペアワークや活動を授業に取り入れる。

令和8年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・課題の分量や質を生徒の実態に合わせて見直すことができた。
- ・新たな課題設定の問題点を見つけることができた。

(2) 課題

- ・より楽しく課題に取り組めるよう新しい教材を開発する。
- ・新しい教材に取り組みやすいよう十分な準備をする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

実施なしのため省略

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作に必要な知識・技能を身に付けさせる。美術文化に親しませ、知識を身に付けさせる。スライドの内容を工夫する。	作品制作の条件を理解させ、豊かな表現力を身に付けさせる。より楽しく表現できるよう新しい教材を開発する。	授業規律を守り、集中して制作に取り組めるようにする。作品提出の期限を守る大切さを理解させる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作に必要な知識・技能を身に付けさせる。美術文化に更に興味を抱かせ、知識を身に付けさせる。スライドの内容を工夫する。	材料の特徴を生かし、豊かな表現ができるようにする。より楽しく表現できるよう新しい教材を開発する。	授業内で作品を完成させられるよう指導する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作に必要な知識・技能を深め、より専門性の高い分野に取り組めるようにする。美術文化への理解を深め、大切にする気持ちを育む。	社会の中の美術と関連する題材を用いることで、社会との関りを考えながら表現できるようにする。新しい教材を開発する。	授業内で作品を完成させられるよう指導する。

令和8年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業内での大きな怪我なく、安全第一に取り組むことができた。
- ・ICT 機器を活用した授業の取り組みを行った。動作分析や見本動画などを作ることができた。
- ・授業の中で、生徒同士が関わる活動を増やした。生徒同士が同じ目標を見据え活動できる場を作れた。

その中で試行錯誤を重ねて、技能の伸長を感じることが、思考力の向上に寄与したと考える。

(2) 課題

- ・水泳がWBGTの結果、見学者の対応について。
- ・デジタルでの提出物（オクリンクプラス・クラスルーム）に関して、教員側は管理が容易となる。ただ、生徒は紙での提出率が高く、意識づけをより強調していく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1)(2) 実施なしのため省略

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の特性を理解し、特性を育ませるために必要な運動技能の習得や知識を身につける。個別の課題を設けて習得を目指す。	自分の技能に応じて、練習方法を選択したり、課題解決方法をみつけたりして学習に取り組んでいる。また、自分の考えをワークシート等を書く事を育ませる。	積極的に運動に取り組む姿勢をもち、仲間の学習を応援しながら学習に取り組ませる。健康・安全に留意しながら取り組む姿勢を育ませる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の特性を理解し、特性を育ませるために必要な運動技能の習得や知識を身につける。個別の課題を設けて習得を目指す。	自分の技能に応じて、練習方法を選択したり、課題解決方法をみつけたりして学習に取り組んでいる。また、自分の考えをワークシート等を書く事を育ませる。	積極的に運動に取り組む姿勢をもち、仲間の学習を応援しながら学習に取り組ませる。健康・安全に留意しながら取り組む姿勢を育ませる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の特性やルールを強調し、ポイントを整理しイメージを持って活動させる。技能を身に	自他の安全、熱中症に留意し、自己及び仲間の課題を発見した上で仲間に伝え、より効果的な活動	種目ごとに安全かつ、熱中症に注意しつつ意欲的に取り組ませる。狙いや課題を明確にし、「見通し」を持たせ積極的に取り組め

つけ、考えたことを行動に移していく力をつけていく。その場に応じて応用できるようにする。	方法を考え実践できるように学習カードを有効に使用し、目標を持たせる。	るようにする。仲間との関わりを大事にし、うまく行かないときでも仲間から応援される、温かい雰囲気お互いに作りあう。ペア・グループでの活動を取り入れ互いにアドバイスをし合う活動を行う。
--	---	---

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・技術・家庭ともに体験的な実習授業を取り入れ、基本的技能を体験できる機会を設けている。
実習を通して、ミシンやアイロンの操作や安全な使用方法を身につけることができた。
- ・道具や材料の管理、電源・電圧を考慮しながらの器具の配置に努めることで安心・安全に活動ができた。
- ・1年生に関しては、被服の実技の最初に紙で和服を折り紙することで、和服の成り立ちを実践的に学ぶことができた。教科書会社の制作している着付けや畳み方の動画を視聴することで、和服を着用してみたいという気持ちや和服への関心を深めることに繋がった。また、2学期からは全9時間でエプロン製作を実施した。
- ・2年生に関しては、全9時間でエプロン製作を実施した。ミシンによる三つ折りと手縫いによるまつり縫いなど様々な衣服の修理の技術を活かして作品を制作することができた。また、腰ひもや首ひもの作り方とつけ方の学習から、日本の「ひもの文化」や「強度の増し方」を実践学習することができた。完成した作品は校内作品展や区展や都展に出品することができた。早く完成した生徒へは、もう1つポケットを付けたり、教材の付録の三角巾の製作に進め、進度調整をしている。
- ・3年生は、幼児のおもちゃの製作で補修の技術である半返し縫いを実践しながら、ぬいぐるみを製作した。型紙を使った裁断をしたりダーツの縫い方で立体の表現をしたりと応用へ繋げることができた。完成した作品は校内作品展や区展や都展に出品することができた。早く完成した生徒は2体目を友達と協力して製作、年度末には、国内外の子どものいる施設に手作りのぬいぐるみを寄付する生徒も数名みられ自分の技能を還元する活動に繋げることができた。家庭経済の分野については、「生活設計」と「資産運用」について金融機関の民間企業に連携して頂き、オンライン授業を2週に渡って受講し、自分の将来の生活設計を考えることができた。
- ・実習活動は毎時間、記録することで時間や完成度を意識しながら取り組む事ができた。
- ・2、3年生の調理実習に関しては、ガスオーブンを使用し焼き菓子に挑戦した。自作のスライドを配信し各班の班長が作業工程を調理台の傍で確認することで作業効率をあげることができた。焼き菓子については、牛乳や卵や小麦粉などの食物アレルギーの原因食材を代替の材料で作ることで、全員が調理と試食に参加することができた。
- ・従来の紙の説明書だけでなく、自作スライドの作成、ICTを活用して教科書会社の動画、など様々な方法で解説をし、その上で実習活動をすることで、必要な情報を提供し工夫しやすい環境を整えることで、多くの生徒に対応できるように努めている。
- ・今までの学習した技術を新しい教材や実習に活かし、技能の維持や向上ができています。
- ・生徒一人一人が自分の考えをまとめ、発表や班活動で意見の共有をすることで視野を広げることができたり他者の考えを尊重する機会を持ったりすることができた。
- ・実習の記録や単元のまとめを書くことで、自分の考えを表現する力の一助になっている。

(2) 課題

- ・ものづくりに興味関心を示し取り組む生徒も多いが、基礎・基本的な知識や技能の習得が苦手な生徒も多い。
- ・ミシンの操作は慣れるまでに個人差があり、糸のかけ方や縫いはじめと終わりの返し縫いなどは声かけや支援を必要とする生徒がいた。また、手縫いに関しても個人差があり、針と布を持ち適

切に縫うことに支援が必要な生徒がみられた。

- ・アイロンを使用することをきっかけに離席することで、作品製作に集中できなくなってしまう生徒さんが一定数みられる。学年の先生方の協力を頂きながら対応している。
- ・限られた時間の中で標準製作時間に沿ってすすめることが苦手で支援が必要な生徒がみられた。
- ・説明書の図を見ても上下の方向や裏表を理解することが苦手で支援が必要な生徒がみられた。
- ・調理実習に関しては、食物アレルギーについて患者数の増加（顕在化）や原因食材が増えていることを踏まえ、授業展開では除去が必要な生徒への混入防止対策や献立の立案に綿密な準備が必要になっている。
- ・実生活につながる基本的技能を経験する場が少ないため引き続き、実践活動の時間を十分に確保する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

実施なしのため省略

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基礎的・基本的な知識や技能を理解させる。実践活動を通して知識を深める。 ・被服の実技の最初に雑巾の製作でミシンと並縫いを実施する。 ・ICT 機器を使用し、視覚的に分かりやすい授業の展開を実践していく。 ・実技指導が必要な実践活動は classroom に自作のスライドや動画、教科書会社の作り方の動画などを配信し活用することで理解を深める。	・実用性の検討や実生活について課題解決に向けて自分の考えをまとめ他者の考えを聞くことで視野を広げていく。 ・実習で基礎に則って作品を作れるようになる。使用する道具や材料の知識を築いたうえで必要に応じた道具の使い方や方法を選択できるようにしていく。 学習内容が自身の生活にどのように活かせるか班で共有したり発表したりする。	・毎時間のまとめの時間に記録や実生活への活かし方について 50 文字程度の作文を習慣化する。 ・授業の終わりまでに主体的に自分の考えをまとめることができる。 ・班活動を通して、協力しながら意見交換や実習をすすめることができる。 ・作品を完成して提出することの大切さを理解させる。 ・自分で手作りすることで作品に愛着が湧き、物を大切に作る心や、活用することで実生活に繋げていく。 ・完成した作品を家庭で使用することで、作る喜びや達成感から、次の領域の主体的に学ぶ力に反映させていく。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・今まで習得した知識や技能を活用しながら、製作に取り組む。 ・実技指導が必要な実践活動は classroom に自作のスライ	・実用性の検討や実生活について課題解決に向けて自分の考えをまとめ、他者の考えを聞くことで視野を広げていく。 ・製作に向けて構想を書かせ、計	・実生活をよりよくするために、技術の役割や衣生活・住生活について考えさせる。 ・授業の終わりまでに主体的に自分の考えをまとめることができ

ドや動画、教科書会社の作り方の動画などを配信し活用することで理解を深める。 ・フランス刺しゅう教材を取り入れる。 ・技術を伸ばすために同じ技術を繰り返したり、応用する手法で製作したりしていく。 ・今までの知識を深め技能を磨くことで生活の質が向上することを理解する。	画に沿って実現できるように工夫しながら計画を立てたり、進捗に合わせて修正したり自己で完成までの管理ができる。 ・様々な刺しゅうの技術を活かして、次回作に自分のデザインした図案を刺す。 ・今までの学習から技術・家庭の様々な領域を横断して活かすことで生活の質の向上をめざせるようになる。	る。必要に応じて提出することができる。 ・班活動を通して、協力しながら意見交換や実習をすすめることができる。 ・1 図案 1 時間程度で 9 種類の図案を取り入れることで、早く完成した生徒への発展的な活動に繋げ、進度調整としての役割も担う。 ・完成した作品を家庭で使用することで、作る喜びや達成感から、次の領域の主体的に学ぶ力に反映させていく。
---	---	---

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICT 機器を活用して、より実用的な理解を深める。 実技指導が必要な実践活動も classroom に動画を配信し活用することで理解を深める。 ・幼児の安全や発達に配慮しながら幼児のおもちゃの製作（ぬいぐるみ）を実施する。 ・手縫いの基礎基本を理解させ、応用である型紙を使った裁断方法や、ダーツで立体的な作品作りで技能の向上を目指す。	・情報を活用し、工夫して応用的に活用できるようにする。 ・分からないことをすぐに質問するのではなく、説明書を読んだり、お手本の動画を視聴したり考える機会を与える。 ・自分の好きな配色でぬいぐるみのパーツを構成し表現する。 ・安全で適切に実習をするために問題の発見や課題の設定、実習計画、実習過程や結果の評価ができるようになる。 ・家庭経済の単元では金融機関の民間企業と連携しオンライン授業を受講することで自分の将来の生活設計について実践的に考える。 ・今までの様々な体験学習を通して、技術・家庭の色々な領域を横断し活かすことで生活の質の向上に繋げる。	・より豊かな生活を送るために、今まで学習したことを活かせる場面を考えさせる。 ・毎時間のまとめの時間に記録や実生活への活かし方について 80 文字程度の作文を習慣化する。 ・幼児のおもちゃの製作では、一部余り布を活用することでリデュース・リユースの実践や物や思い出を大切に作る心を育てる。自分の考えを作品作りに生かして欲しい。 ・班活動を通して、協力しながら意見交換や実習をすすめることができる。 ・作品を完成して提出することの大切さを理解させる。

令和8年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・音楽的理論や楽典的知識の理解度は高く、さらに学ぼうとする姿勢がある。
- ・実技試験での達成度が高い。試験を設定することで意欲が高まった。

(2) 課題

- ・基礎的な音楽記号や音符休符に苦手意識があること。
- ・指示待ちの生徒がいること。

2 大田区学習効果測定の結果分析

実施なしのため省略

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・変声期に配慮しながら、自分の声に自信をもって歌唱する技能を身につけさせる。 ・読譜や音楽記号についての知識を身につけさせる。	・強弱の変化などの表現をつけて歌唱することができるようにさせる。 ・楽曲を聴いて感じたことを簡単な言葉で言語化できるようにさせる。	・目標に対する成果と課題を振り返ることができるようにさせる。 ・音楽活動や他者との取り組みの楽しさを実感できるようにさせる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・より響く発声方法を身につけ、豊かな声で歌唱することができるようにさせる。 ・読譜や音楽記号についての知識を身につけ、表現することができるようにさせる。	・曲の背景や作者の思いを理解して歌唱表現することができるようにさせる。 ・楽曲を聴いて感じたことを演奏の編成や楽器の音色に注目して言語化できるようにさせる。	・目標に対する成果と課題を、それまでの知識と関連付けながら振り返ることができるようにさせる。 ・音楽活動や他者との取り組みの楽しさを実感できるようにさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想に合った発声方法を身につけ、表現することができるようにさせる。 ・読譜や音楽記号についての知識を身につけ、思いや意図をもって表現することができるようにさせる。	・曲の背景や作者の思いと楽曲の特徴を関連づけて表現することができるようにさせる。 ・楽曲を聴いて感じたことを根拠をもって批評することができるようにさせる。	・目標に対する成果と課題を振り返り、自らの学習を調整しようとしてできるようにさせる。 ・音楽活動や他者との取り組みの楽しさを実感し、生涯に渡って音楽を愛好する心情を育てる。

